

平成 28 年度第 1 回 屋久島世界遺産地域科学委員会 議事要旨

(1) 平成 27 年度第 2 回科学委員会の議事要旨

- ・委員からの主な意見、特になし。訂正する必要があるればメーリングリスト等で連絡する。

(2) 屋久島世界遺産地域管理計画の実施状況について

- ・資料名がわかりづらいので、具体的な資料名に変えてもらえないか。
- ・デッキのルートが 2 本計画されているようだが、出来れば人が往復できる幅を確保し 1 本で計画した方が良いのでは。景観上も良いと思うが。
- ・淀川登山口休憩舎の規模は、どの程度のものを想定しているのか。また、現在紀元スギが終点となっているバス路線を淀川登山口まで延長できないか。

(3) モニタリング調査などの実施状況について

- ・自然の推移と言うことも考えて見守るべき部分、止める部分、戻す部分、緊急的なもの、長期的なものもしっかり整理して論点を考えるべき。

(登山道の荒廃及び植生回復について)

- ・新たな登山道の開設については、現状を把握する必要があるが、出来るだけ尾根にルートを開設するのが原則であり、水が集まりやすい地形は不向きである。
- ・登山客の影響がどの程度か整理し、利用者制限や踏み込まないように対策が必要である。
- ・別ルートの問題に関しては、GIS を使って一定の傾斜を出すのは可能なので、宮之浦頂上に行くルートで傾斜の小さいところを伝って行くルートの検討も必要。
- ・植生を回復させるためには、人為的に土を盛り、平坦な場所を作る必要がある。また、過去に歩道だった場所などを現地で確認することで、掘れてしまった部分が植生回復するにはどのくらいで復旧するのかが推定できる可能性がある。また、土壌の科学的な調査を行い、侵食状況や遷移について調べる必要がある。

(花之江河・小花之江河について)

- ・花之江河については、上流側と下流側の土砂の流入・出のバランスが不均衡となっている。環境・地形的な条件・流れがどうなっているのか細かな調査が必要。明らかに地形的な条件が認められるものについては対策を要する。
- ・気温のデータは過去の水温との比較により過去の気温も類推でき重要である。
- ・ミズゴケの減少はシカの影響が強いが、個体数を減らしても戻るかどうかは不明である。

(植生垂直分布について)

- ・草本層の割合が 40% を超える箇所が減ってきており、シカの影響かと思われるが、ハイノキである可能性がある場所もある。下層植生の種の変化を見て、その辺の違いが分かるような整理が必要。草本層の定義を明確にすること。
- ・シカの影響については、人為的に早急に対策を講じることも検討するべき。

(4) ヤクシカワーキンググループについて

- ・科学委員会には概要版ではなく、具体的な数字を盛り込んだしっかりとした説明をしてほしい。奥山地域での捕獲など、議論の動向が知りたい。
- ・西部地区の被害が目立つ、森林の様子が随分と変わってきているが、何の手立てもなされていない。また、提案もなされていない。何処で誰が対策を考えるのか。
- ・ようやく国有林内での捕獲の話ができる段階になったが、5つ課題があると認識している。
(①生息密度や生息域の把握、②奥岳での捕獲に要する行政機関の予算措置、③捕獲個体の処理法、④シャープシューティング射手の人材育成及び地元猟友会との合意形成、⑤登山者や地元住民、研究者、請負事業等との安全対策を含む調整。)

(5) 山岳部利用のあり方について

- ・教育の分野の関連の方をいれて、議論するべき。多角的な視点から人選をした方がよいと考える。
- ・地質のことがあまり周知されていない印象を受けた。
- ・コケのことは認識されているが、シダについての認識がない。屋久島は、シダの生育地では、世界的に希有なところもあることから、ガイド等を通じて発信できれば良い。

(6) その他

(し尿搬出用モノレールについて)

- ・新しいルートは、以前屋久島山学会が使っていたルートとほぼ同じで、原生的な自然景観の地域を通っており、かなりの環境負荷が出る可能性が高い。
- ・モノレール自体のよしあしを判断してほしい。ロープウェイ・索道であれば設置費・維持費もかなり安くおさえられることから、検討してみてもどうか。
- ・索道であれば、「安くて設置できるから良い」という問題ではなく、もっと慎重に考える必要がある。短期的には問題解決となるが、長期的に問題（携帯トイレの普及等）が発生する恐れがある。
- ・新しいルートは、基本的には尾根での計画とすべきである。

(世界遺産地域ネットワーク協議会の設立について)

- ・国の方でも、科学委員会が交流する機会を創っていただければ良い。恒常的でなくても経験を交流する機会があれば良い。

(屋久島・口永良部島ユネスコエコパークの拡張申請について)

- ・民間レベルの動きと行政機関の責任で守る条約という二つの考え方があるが、これをうまく両立させていってほしい。
- ・世界遺産は、圧倒的に基準・クオリティによって全部占められているので、世界遺産の物差しで測られたものである。エコパークは、地域の物差しとして期待したい。